

## 栗駒山の火山活動解説資料（令和3年1月）

仙台管区气象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図1）

監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

#### ・地震や微動の発生状況（図2）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

なお、栗駒山周辺では、「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」の余震域内で地震活動が続いています。

#### ・地殻変動の状況（図3、図5）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図1 栗駒山 山頂周辺の状況（1月23日）

・大柳監視カメラ（山頂の南東約20km）の映像です。

噴気は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)) でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和3年2月分）は令和3年3月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています。

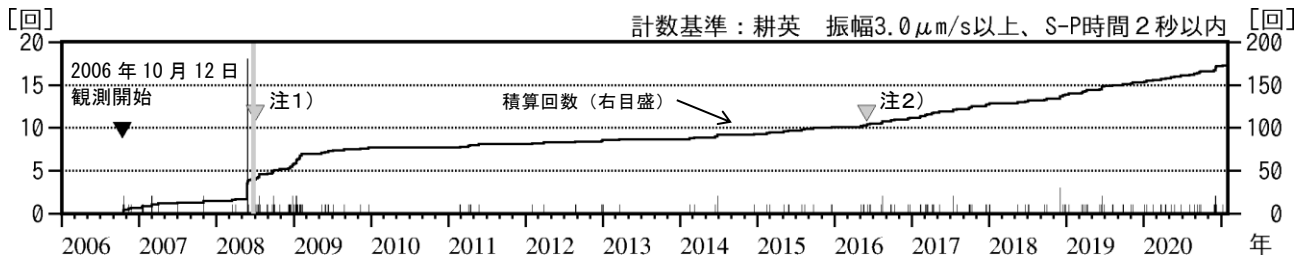


図2 栗駒山 日別地震回数（2006年10月～2021年1月）

・計数基準の変遷は次のとおりです。

観測開始 2006年10月12日 ～ 旧耕英観測点 振幅  $3.0 \mu\text{m/s}$  以上、S-P時間 2.0秒以内

注1) 2008年7月2日 ～ 小安<sup>おやす</sup>観測点（2010年10月8日まで）及び広域地震観測網

注2) 2016年6月1日 ～ 耕英観測点 振幅  $3.0 \mu\text{m/s}$  以上、S-P時間 2.0秒以内  
 ※2008年6月14日～7月2日18時（図の灰色部分）

「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」の影響により観測不能

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

なお、栗駒山周辺では、「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」の余震域内で地震活動が続いています。

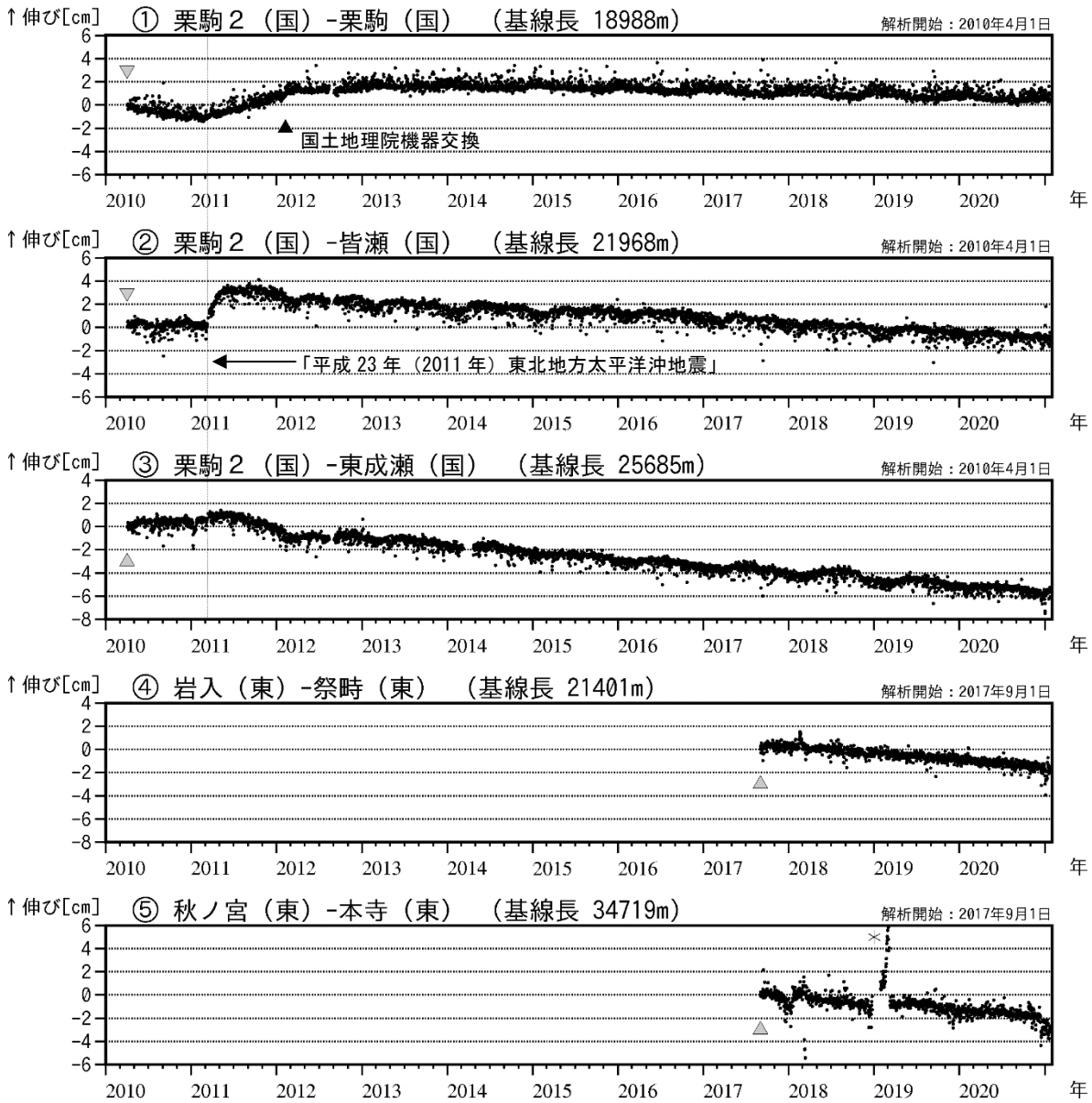


図3 栗駒山 GNSS 基線長変化図（2010年4月～2021年1月）

- ・「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～⑤は図5のGNSS基線①～⑤に対応しています。
- ・空白部分は欠測を示します。
- ・（国）は国土地理院、（東）は東北大学の観測点を示します。
- \*：秋ノ宮（東）観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。
- ▲▼：解析開始を示します。

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

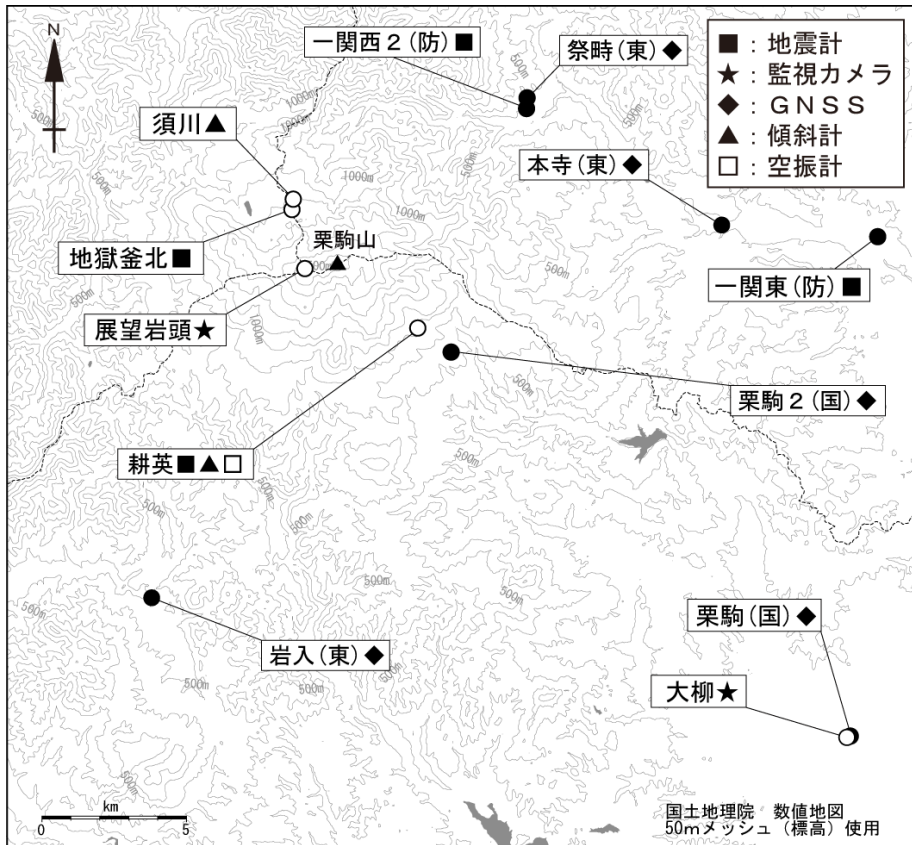


図4 栗駒山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

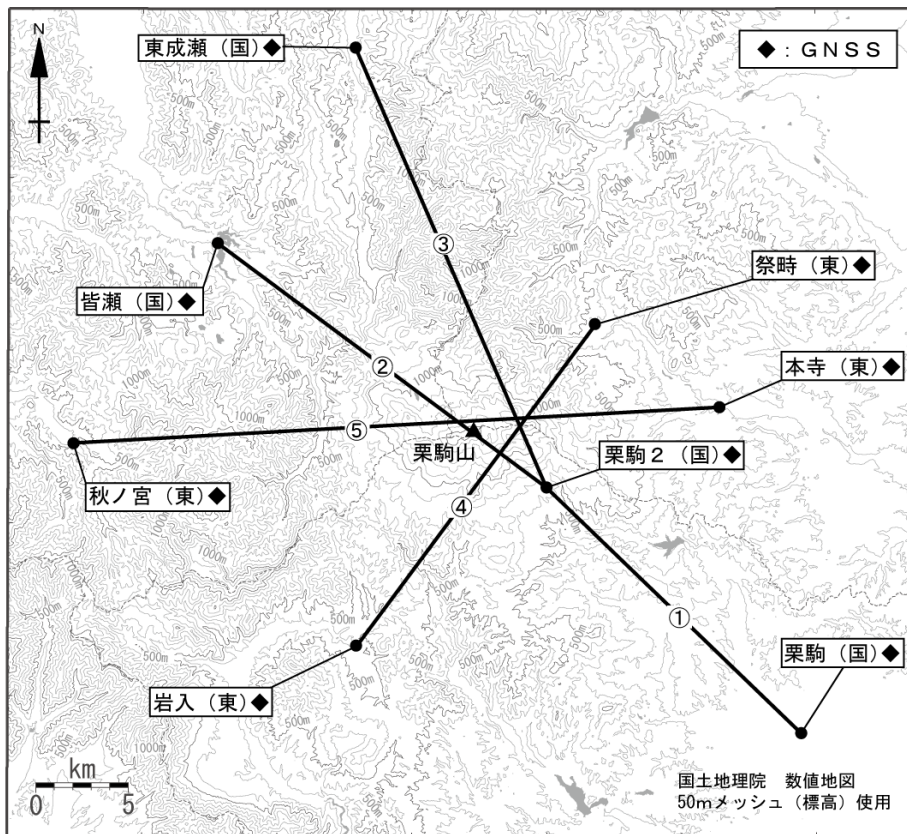


図5 栗駒山 GNSS 観測基線図

黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学